

## 【研究概要】

新規免疫モジュレーター因子を用いた抗がん剤開発

(二村 圭祐)

腫瘍細胞が遠隔臓器へ転移した患者の予後は依然として不良である。転移腫瘍間、腫瘍内での不均一性や腫瘍抗原の組み合わせの多様性が化学療法や現在の免疫療法に対する抵抗性の主たる原因となっている。本研究は、変異を繰り返す腫瘍に対抗するために、体内で様々な腫瘍抗原を認識する T 細胞を積極的に誘導可能な mRNA と脂質ナノ粒子を組み合わせたユニバーサルな免疫療法の開発を進めている。